

我慢

二 十年以上も前のことになりました。私に子どもが授かったことを知った五十代半ばの女性の先輩教師が「まず一番最初に子どもに教えることは、我慢することです」とアドバイスしてくれました。堪え性のない私に対しての親の心構えであったのかどうか定かではありませんが、そう言われたことを今でもはつきりと覚えていきます。

我慢することはとても大切なことで、それはなにも子どもに限ったことではありません。大人になれば尚更大切です。勿論、我慢にも限度・限界があり、何でも我慢すれば良いというわけではありませんが、昨今、自分の主張や欲求が優先し、責任を伴う本来の自由とわがまを履き違え我慢を見失っている人が多くいるように思います。

『自分の中から湧き上がってくる欲求や欲望そしてわがままな感情等を、しっかりと制御し、正しく好ましい行動ができるような力』を自己統制力（セルフ・コントロール）と言うそうですが、この自己統制力には当然、我慢も含まれるのです。この頃、声高に自己主張をする人が多く目立ちます。自己主張は悪いことではありませんが、自分の責任や役割をきちんと果たし、規範意識がしっかりした上での自己主張でなければなりません。この世の中、我慢があつて初めて得ることの出来るものもいっぱいあるのです。わがままを通せば、溜飲が下がり楽しいように思うかも知れませんが、わがままが通れば、その後には空しさしか残らないのです。そして更なるわがままが、自分の中に生まれてくるのです。本当に主張すべきことなのか、主張してもよいことなのか、それをしっかりと見分けることが大切です。

私

が初めて教頭になって赴任した学校に、自分の意に染まさないことがあると、暴言を吐いて暴れ出し、休み時間だろうが授業中

だろうが学校を飛び出してしまふ生徒がいました。それが一度ならず度々あるのです。クラスメイトも彼が突然怒り出す原因が分からずに戸惑い、授業も中断する有様でした。先生達が止める間もなく学校からいなくなってしまうのです。八方に手を尽くして彼を見付け学校へ連れ帰ることが何度か続きました。保護者の方に学校へ来てもらった時、開口一番、教頭が厳しいから息子は学校を抜け出すのだと母親が言ったのです。出身中学校の先生方からも彼は突然キレて学校を飛び出すなど手に負えない生徒だったと聞いていたのですが、そのことは此方からは言いませんでした。更に母親は、この子はキレると何をしでかすか分からないから、好きなようにさせてやらなければならぬと主張したのです。その話を聞き私は母親の前で、その生徒に自分の思うままにならないからと言って暴言を吐いたり暴れたり、学校から逃げ出してはだめだと強く叱りました。生徒は目をつり上げてわなわなと震えながら、今にも私に向かつてこようとしましたが、それはボーズだけだと私は確信しました。この生徒には今まで恐い存在の大人がいなかったのだと思えました。彼の前に私が一歩踏み出すと、彼が後退りしたのです。彼を極端なわがままにしてしまったのは、つまり親や教師など周りの大人達だったのです。

暴

言を吐き、自分の思うとおりにしようとする子どもは、小学校一年生からいます。一体誰が、このような子どもにしてしまったのでしょうか。それは、大人達全員の責任であることに違いはないのですが、その中でも親の責任が最も大きいでしょう。我が子をしつかりとつけてから小学校に上げること。それは親としての最も基本的な責任であり、家庭教育の根本であることを忘れてはいけないと思うのです。

（元青森県立北斗高校校長）